●●●2020年４月～６月期　栃木県中小企業景況調査(164回)●●●

【栃木県ＤＩ指数天気図】

point!

県内全体の業況は、前期比-39.0ポイントと大幅に悪化し、ＤＩ値は-63.4となった。全国の業況も県内とほぼ同値の-64.1となった。業種別にみても、全業種で大幅な悪化となっており、また経営上の問題点では全業種とも「需要の停滞」が１位に挙がっていることから、新型コロナウイルス感染症の経済・企業への影響が深刻化していると言える。

来期の県内全体の業況は17.3ポイントの改善となる見込み。製造業・小売業・サービス業では改善傾向にあるものの、建設業は引き続き大幅な悪化が見込まれる。

今期(県内全体)の業況

ＤＩ値
-63.4
※全国　-64.1

～天気図の指標～

現　状	良　い	やや良い	やや悪い	悪　い	とても悪い
天気図					
ＤＩ値	15.1～	15～0.1	0～-15	-15.1～-40	-40.1～

業種＼項目	今期(全体)	売上額	仕入単価※	採算	資金繰り	来期予想(全体)
製造業						
ＤＩ値	-76.1	-69.9	6.9	-73.3	-53.3	-42.1
業　況：売上額、採算、資金繰りが大幅に悪化、来期も停滞続く（ＤＩ値　前期比-50.9ポイント）						(↗)
建設業						
ＤＩ値	-29.2	-50.0	30.0	-40.0	-40.0	-52.3
業　況：売上額、採算、資金繰りが大幅悪化、来期も悪化の見込み（ＤＩ値　前期比-16.7ポイント）						(↘)
小売業						
ＤＩ値	-61.4	-60.0	12.5	-52.5	-50.0	-39.5
業　況：売上額、採算、資金繰りが大幅悪化（ＤＩ値　前期比-22.6ポイント）						(↗)
サービス業						
ＤＩ値	-65.3	-76.7	3.4	-66.7	-54.9	-51.3
業　況：売上額、採算、資金繰りが大幅悪化も、来期は改善の見込み（ＤＩ値　前期比-46.6ポイント）						(↗)

※仕入単価はプラスになるほど悪化となります

【経営上の問題点】

製造業

第1位：　需要の停滞　(45.8%)

第2位：　製品ニーズの変化への対応　(9.7%)

第3位：　製品（加工）単価の低下・上昇難　(6.9%)

小売業

第1位：　需要の停滞　(33.9%)

第2位：　消費者ニーズの変化への対応(18.4%)

第3位：　大・中型店の進出による競争の激化　(7.1%)

建設業

第1位：　民間需要の停滞(38.7%)

第2位：　従業員の確保難(19.4%)

第3位：　材料費・人件費以外の経費の増加　(6.5%)

サービス業

第1位：　需要の停滞　(26.4%)

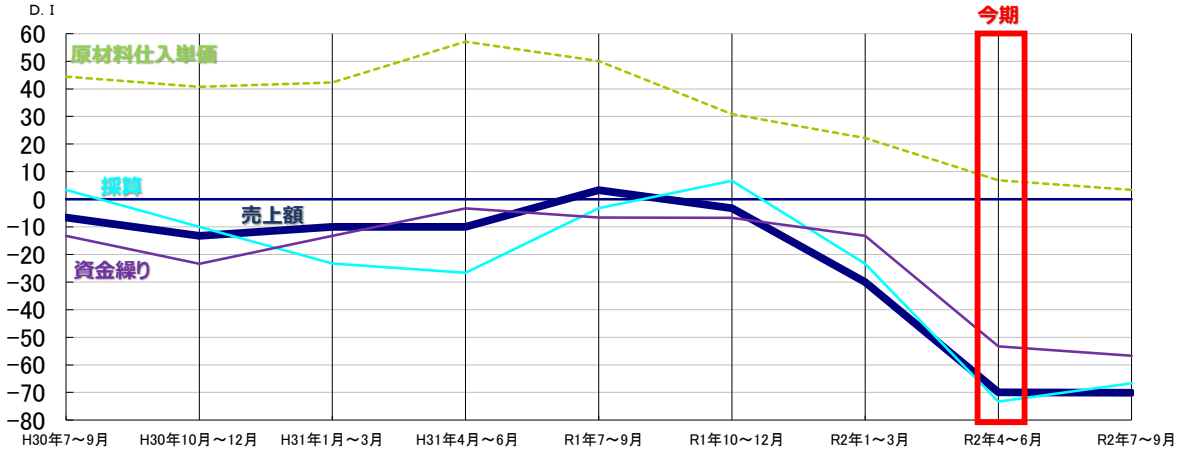
第2位：　利用者ニーズの変化への対応　(18.4%)

第3位：　材料等仕入単価の上昇　(11.5%)

－主要景況項目の推移－

製造業

「売上額、採算、資金繰りが大幅に悪化、来期も停滞続く」

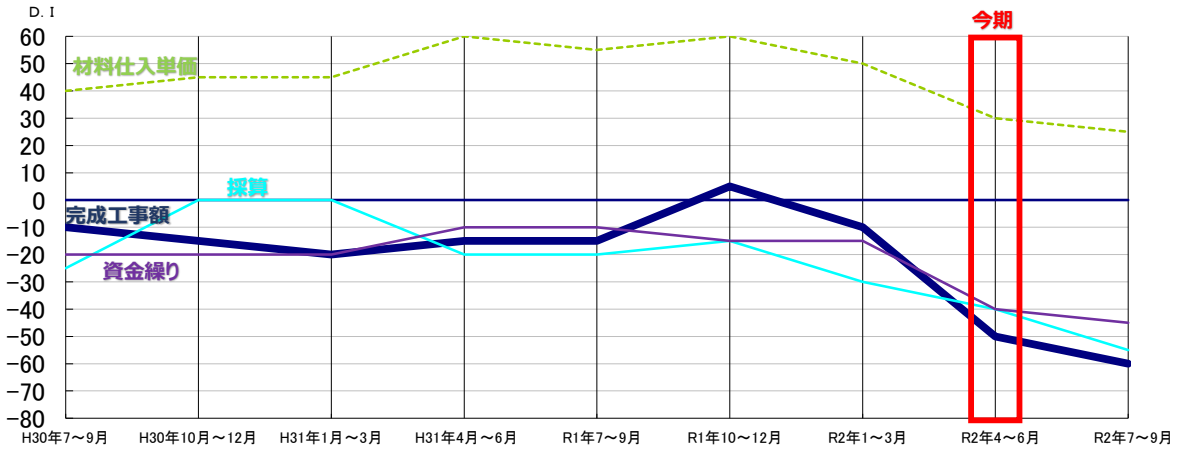


新型コロナウイルス感染症の影響により**「売上額」**(-30.0→-69.9）、**「採算」**(-23.4→-73.3）、**「資金繰り」**(-13.3→-53.3）のいずれも大幅な悪化となった。来期は**「採算」**が6.6ポイント(-73.3→-66.7)改善されるものの、今期に引き続き、悪化した状態が続く見込みである。

また、**「原材料仕入単価」**（22.2→6.9）は４期連続で改善を示し、来期においてもさらなる改善（6.9→3.4）が見込まれる。

建設業

「売上額(完成工事額)、採算、資金繰りが大幅悪化、来期も悪化の見込み」

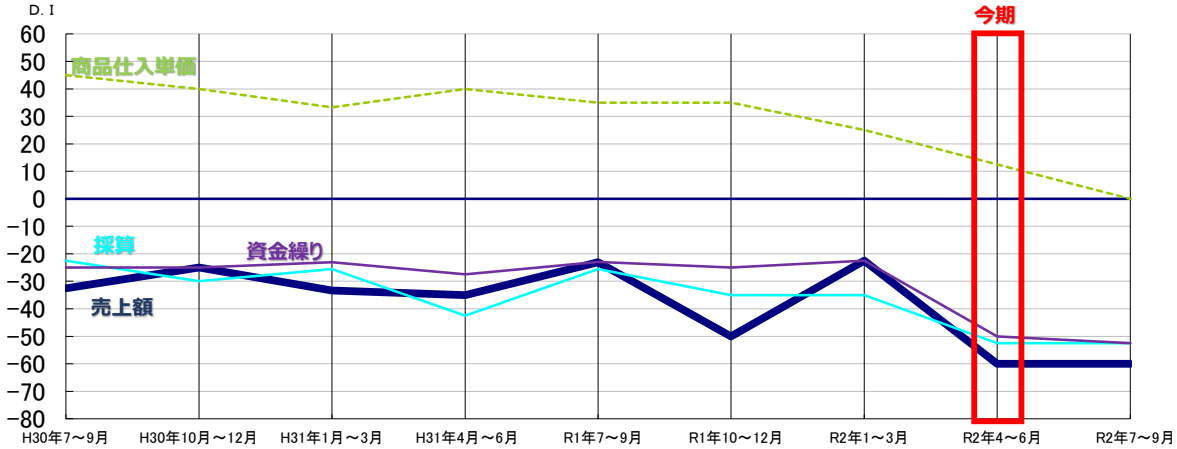


「売上額（完成工事額）」が-40.0ポイント（-10.0→-50.0）、**「採算」**が-10.0ポイント（-30.0→-40.0）、**「資金繰り」**が-25.0ポイント（-15.0→-40.0）とそれぞれ大幅な悪化となった。他業種については来期、横ばいまたは若干の改善傾向となっているものの、建設業については来期もさらなる悪化となる見込みで、厳しい状況が続く。

「材料仕入単価」は、20ポイント（50.0→30.0）改善しており、来期も引き続き改善（30.0→25.0）が見込まれる。

小売業

「売上額、採算、資金繰りが大幅悪化」



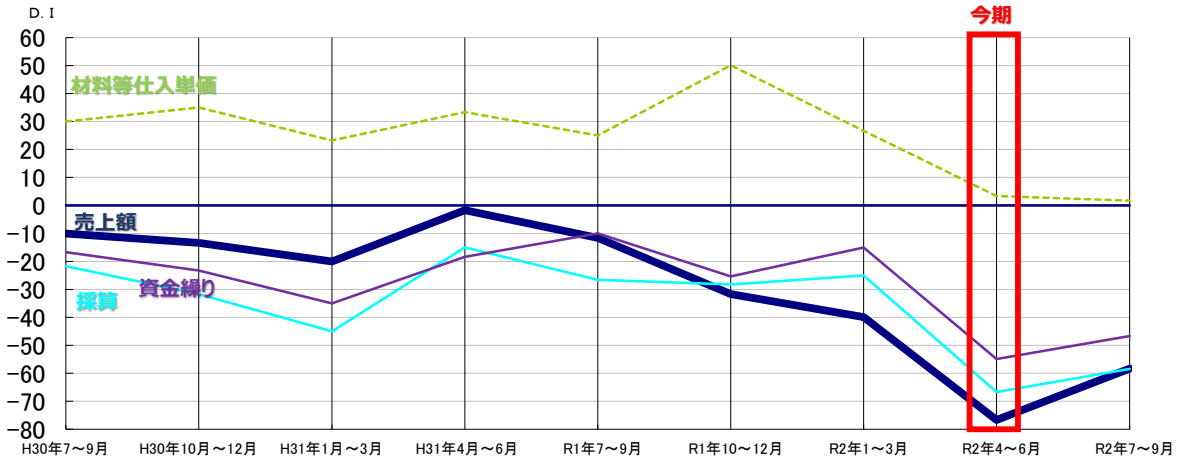
今期は、**「売上額」**が-37.5ポイント(-22.5→-60.0)、**「採算」**が-17.5ポイント(-35.0→-52.5)、**「資金繰り」**においては-27.5ポイント（-22.5→-50.0）と他業種同様、大幅な悪化となった。

来期においては、**「資金繰り」**が若干悪化（-2.5ポイント）するものの**「売上額」**と**「採算」**は、横ばいの見込みである。

「商品仕入単価」は12.5ポイント（25.0→12.5）改善され、来期においても改善が見込まれる。

サービス業

「売上額、採算、資金繰りが大幅悪化も、来期は改善の見込み」



「売上額」が-36.8ポイント(-39.9→-76.7)、**「採算」**が-41.7ポイント(-25.0→-66.7)、**「資金繰り」**が-39.9ポイント(-15.0→-54.9)と大幅な悪化となったものの、来期は**「売上額」**が18.4ポイント、**「採算」**が8.3ポイント、**「資金繰り」**が8.2ポイントの改善となる見込みである。

「材料等仕入単価」は23.3ポイント(26.7→3.4)と大幅な改善が見られ、来期についてもさらなる改善となる見込みである。

調査要領

○調査の目的

中小企業景況調査は、全国の商工会地区に地域経済観測点を設置し、地域の産業の状況や経済動向等について、一定時期ごとに変化の実態諸情報を迅速かつ的確に収集・提供して、経営改善普及事業の効果的実施に資するものとする。本報告書は、栃木県内商工会地区における、「製造業」「建設業」「小売業」「サービス業」の４業種を、主要景況項目(売上額・原材料仕入単価・採算・資金繰り)から分析し、景況情報をまとめたものである。

○調査対象地区（栃木県商工会地区）

粟　野・にのみや・石　橋・桑　絹・大 平 町

岩 舟 町・塩 谷 町・高根沢町・那須烏山・足利市坂西

○調査時点

2020 年 6 月 1 日

○調査対象期間

2020年４月～６月期の実績及び、2020年７月～９月期の見通しについて調査

○調査方法

商工会の経営指導員による訪問調査

○回答企業数内訳

業　種	回答企業数	構成比(%)
製 造 業	30	20.0%
建 設 業	20	13.3%
小 売 業	40	26.7%
サービス業	60	40.0%
合　計	150	100.0%

※ＤＩ指数とは

報告書に登場するＤＩ値とは、ディフュージョン・インデックス(Diffusion Index　＝ 景気動向指数)の略であり、各調査項目についての増加(上昇・好転)企業割合から減少(低下・悪化)企業割合を差し引いた値を示すものである。

ＤＩ値がプラスのときは業況の好転、マイナスのときは業況の悪化を示すことから、景気の動向を判断する指数として利用される。また、ＤＩ値は強気・弱気など、景況感の相対的な広がりを示すものであり、売上額などの実数値の上昇率とは異なる。

たとえば、今期の売上額を前年同期と比較した結果、増加企業が５０％、不変企業が３０％、減少企業が２０％となったとすると、ＤＩ値は５０－２０＝３０となり、売上額に対して強気の度合いを示している。

次の100年も・・・ここに商工会

編　集：栃木県商工会連合会　経営の見える課

発行所：栃木県商工会連合会　栃木県宇都宮市中央3丁目1番4

TEL 028-637-3731・FAX 028-637-2875